

私のおすすめスポット 会員 横山 正二（燕市吉田在住）

大河津分水の完成以降、大洪水は無くなったといわれている。しかし、それだけですぐに現在のような美田ができあがったわけではない。その後も美田を求めて営々とした努力が続けられた。その事例を紹介したい。

それを象徴するのが、三ヶ字郷といわれた旧分水地区佐善、溝、溝古新の圃場整備事業の完成記念碑である。佐善の西の村はずれにその石碑は建っている。表書きは「拓瀧腴田」新潟県知事巨四郎とある（写真上）。裏書きの沿革によると、この地区は昭和 30 年代になっても排水の悪さから、田舟を使った農業をしていたとのこと。昭和 39 年から県営圃場整備事業が始まり、昭和 44 年ようやく 3,956 ha の近代的な圃場が完成したとある。昭和 30 年代はじめは、耕耘機等の機械化が始まった時代。しかし、ここでは、船を使った農作業を強いられ、機械化が進まなかった。水はけの悪い湿田での農作業は、きつかったとのこと。「整然とした美田からは想像もつかないほど」とある。この事業の完成を待って、ようやく現在の美田が生まれ、近代化が進められたわけである。

もう一つ、弥彦村井田地区の楊枝瀧干拓がある。弥彦の井田山の西手に、昔、低湿地で水深 90cm ほどの楊枝瀧があった。現在は石碑もなく、広がる美田にその面影は全くない。ただ麓の「弥彦村ふるさと学校」に写真が展示されているのみである。この干拓は、大河津分水工事とほぼ同時期の大正初期に始まり、昭和 29 年に完成。吉田の地主・今井家の事業として干拓された。主に農作業の無い冬期間の作業として、約 50 年にわたりその努力は続けられ、ようやく現在のよう姿ができあがった（写真下）。大河津分水工事の完成を見こした工事ではなかったかと思われる。

これらは、いずれも大河津分水の完成があってはじめて可能となった事業ではないかと思う。この他にも寺泊の円上寺瀧や瀧東地区鎧瀧の干拓がある。当時の美田に対する渴望をしのぶことができるスポットである。



団体会員ご紹介 我ら大河津分水応援隊！

信濃川に思いを寄せて

カスミヤ商店

私が嫁いだ横田という地域は信濃川沿いにあり、川をまるで背中に背負った様な地域です。なので、昔は横田切れで信濃川には大変苦しめられたと聞きました。

原稿の依頼を受けた時、今更ですが信濃川とは正確にどこを流れている川？と考えてしまいました。そこで、地図帳を開いてみました。暖かくなったら、実際自分の目で確かめてみたいと思いますが、大川津から途中横田で刈谷田川を合流し、尾崎の中ノロ川を分流するまで一本川だということが解りました。近年の異常気象で、一昨年の大雨による鬼気迫る水位上昇は記憶に新しいと思います。“もし、大河津分水路がなかったら・・・今の横田は・・・” 考えただけでゾッとします。

現在大河津の河川敷にはダンプカーが往き来していますが、現代の技術を以てしても数年かかる工事、先人達の苦労は想像を絶します。「挫折」という二文字は無かったのだろうか・・・多分そこには、何年後かに広がる明るい未来への「希望」があったのだと思います。希望の光を残してくれた先人達に、只々感謝します。

警備も温泉旅館も

ALSOK 新潟総合警備保障株式会社

まずもって NPO 法人信濃川大河津資料館友の会様の日頃のご活動に対し、心から敬意と感謝を申し上げます。地域社会への深い愛情と歴史や文化に対する強い想いは、誠に素晴らしいものであります。今後さらにご発展されますことを心から祈念しております。

さて、当社は昭和 44 年 8 月 8 日に設立し、本年で創立 44 周年を迎えることとなりました。この間、多くの皆様からご支援、ご協力をいただき、お陰様で全国有数の警備会社に成長させていただきましたことに深い感謝と御礼を申し上げます。近年は一般の事業所施設の機械警備の他に家庭向けのホームセキュリティの需要が多くなっております。私どももそのような多様なニーズに対応したリーズナブルで高品質のセキュリティプランを開発し、皆様のご期待に応えるべく努めております。

警備業を中心とした当社であります。同時に弥彦神社近くに「綜栄館」という温泉旅館も営んでおります。鉄筋コンクリート 3 階建の家庭的で静かなお宿ですので、ご家族やグループでの宿泊には最適な温泉旅館です。多くの皆様のご利用をお待ちしております。

結びに、友の会様はじめ会員の皆様のみまますのご活躍、ご健勝を祈念しております。

* 綜栄館 西蒲原郡弥彦村弥彦 2345-7 TEL：0256-94-2279

サケ祭・教養講座・俳句を楽しむ会

開催日：10月6日（土）

終日大河津分水が賑わった秋日となりました。恒例となったサケ祭には150人を超える方々が訪れ、会員有志が心を込めて作った鮭汁とおにぎりはアツという間になくなりました！そして、鮭を堪能したあとはサケの勉強。講師は新潟県ビオトープ管理士会世話人の藤塚治義さん。サケは信濃川をどう泳ぐのか、お話いただきました！俳句を楽しむ会では田村紅子先生をお招きし、20名ほどの方々が大河津分水の秋を詠まれました。互選による6点句は「水音の どこかにありて 乱れ萩 瀬戸きよ子」。作成した句集は資料館で見ることができます！



信濃川下流探訪ツアー

開催日：10月22日（月）

やすらぎ堤や栗ノ木排水機場を見学したほか、朱鷺メッセ展望台では、宮浦中学校のみなさんからガイドしていただきました。中学生のわかりやすいガイドに感心するとともに、子どもたちが信濃川を通じて故郷を伝えてくれることの大切さを再認識させられたツアーとなりました。



水危機ほんとうの話

開催日：11月11日（日）

東京大学の沖大幹先生よりご講演いただきました。地球温暖化は全世界に大洪水と大干ばつをもたらし、日本も例外ではないこと、例えば平成23年7月の新潟県の水害もその一端かもしれないことなど、最先端の知見を丁寧にわかりやすく解説してくださいました。会場となった分水公民館は230名の聴講者で満席となりました！



語り合った大河津分水の息吹

開催日：12月1日（土）

「多くの方々に信濃川や大河津分水を知っていただくために友の会としてできることは何か？」をテーマにワークショップを開催しました。たくさんのアイデアの共通キーワードは「子どもたち」でした。



宮本武之輔銅像完成！

宮本武之輔の故郷、愛媛県松山市では市民団体によって銅像が制作されました！友の会や有志による募金額は8万6千円に達し、宮本武之輔と新潟の繋がりが愛媛新聞で紹介されました。資料館に新聞がありますのでぜひご覧ください！



写真は「宮本武之輔を偲び顕彰する会」から頂きました！

友の会事業の一部は(財)河川環境管理財団から助成をいただいております。今回報告したイベントについては、同財団のHPに詳しい開催報告が掲載されています。ぜひご覧ください！

<http://www.kasenseibikikin.jp/report/>

旧可動堰に関するアンケート

昨年9月から11月にかけて行われた旧可動堰の保存に関する緊急アンケート。3門残す=52%、2門残す6%、1門残す31%となり、約9割の方々が「可動堰を残してほしい」と回答されました。遺産としての「可動堰」の伝え方を考えていきましょう！

川に学ぶ事例発表会に参加！

開催日：1月18日（金）

子どもたちを対象とした河川体験活動の事例発表会が東京で開催され、早川理事長と樋口理事が参加しました。川をフィールドとした子どもたちの活動を支援していけるよう話し合っていました！

〈事務局連絡先〉

〒959-0123 燕市大川津 1215-7

TEL 090-2673-6596(事務局)、090-1996-1256(事務局)、FAX 0256-97-3682

e-mail ohkouzu_tomonokai@yahoo.co.jp <https://www.facebook.com/ohkouzuTOMO/>